

1. 巻頭言

センターレポート第11号によせて



総合情報処理センター長

小山 純

平成3年12月20日に開催された長崎大学情報処理委員会（委員長：学長）の議題として、一般情報処理教育が取り上げられ、三村教養部部長が長崎大学における一般情報処理教育の現状と問題点について報告されました。

近年、情報処理教育の重要性が広く指摘されています。平成3年5月17日に答申された大学審議会の答申「平成5年度以降の高等教育の計画的整備について」では、高等教育が従来以上に重視すべき基礎的能力として、「情報処理能力、外国語能力、表現能力」が挙げられており、文部省資料でも「情報処理教育を語学教育と同様に全学生を対象に実施することが望ましい」と述べています。

長崎大学では、教養部の寺崎先生や前センター長の山田先生らの御努力により、1985年、全国の大学に先駆けて教養部の総合科目として「情報処理Ⅰ」、「情報処理Ⅱ」の一般情報処理教育が開設されました。クラス数、受講者も年々増え、平成3年度には「情報処理Ⅰ」2クラス（601人）、「情報処理Ⅱ」6クラス（347人）開校されておりますが、年々増加する受講希望者に対応出来ず、やむなく抽選で受講者を決定しています。三村教養部部長が報告されました様に、

(1)一般情報処理教育のための専任教官が居らず、一部教官のボランティア的活動によって支えられている、

(2)情報教育を行なうための施設が不足している、

のが現状で、全学生を対象とした一般情報処理教育、語学教育に見合う一般情報処理教育には程遠い状態です。

平成3年6月に行われた大学設置基準の改正（平成3年文部省令第24号）では、初めて「情報処理の学習のための施設の整備」が盛り込まれました。長崎大学総合情報処理センターでは、このような現状を少しでも改善するために、施設と設備の整備をお願いしております。全学のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。